

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873200780
法人名	社会福祉法人 寿山会
事業所名	グループホーム パラディ
所在地	今治市波方町樋口甲120番地1
自己評価作成日	平成24年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年6月20日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>○理念を大切に、利用者本位のサービスを提供できるよう取り組んでいます。</p> <p>○医療と連携をとり、安全で安心して生活できるようにしています。</p> <p>○地域の中で、地域密着型サービス事業所として地域の方々に親しみがあり、なじんだホームとなるよう努力しています。</p> <p>○ご利用者・地域・医療・職員の絆を大切にして、ご利用者の生活の質の向上に努めています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●日々の介護記録は、利用者個々の状態や思いについて情報収集しやすいように、「利用者の言葉」「動作」等、項目に沿って記録する様式を作っておられる。担当職員が3ヶ月ごとに情報をまとめられ、利用者個々の思いや意向の把握に取り組んでおられる。又、事業所独自に、「〇〇様らしきシート」を作成されており、ご本人の希望、こだわり、趣味、馴染みのもの等についてアセスメントされている。</p> <p>●年2回の避難訓練のいずれかに職員が必ず1回は参加されている。事業所の自動通報装置には、7名の近隣住民の方を登録されており、避難訓練時にも参加いただき、利用者の誘導方法等について具体的に練習をされている。又、登録者が自宅から何分で駆けつけられるか計り、把握されている。訓練に参加した地域の方からは、「夜間想定であれば、利用者全員ベッドで寝ていることを想定して訓練する方がいいのではないかと」意見があり、その後の訓練で実施された。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに〇印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に〇印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### I. 理念に基づく運営

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム パラディ

(ユニット名) 虹

記入者(管理者)  
氏名 笠原 好美

評価完了日 平成 24年 5月 31日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「ひとり一人が その人らしく 尊厳のある暮らし」の理念を具体的に表している行動指針に、「地域の中で暮らせる家づくり」と掲げている。理念がケアに反映させられるように、介護計画作成時、職員間で話し合い作成しており、日々実践している。	
			(外部評価) 職員一人ひとりが、理念を踏まえて考え行動できるように、職員で話し合い「できる事を探そう」「したい事を探そう」「絆を大切にしよう」「地域の中で共に暮せる家作り」という4つの行動指針を作成され、理念の実践に向けて日々取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の資源や高齢者の状況が示された「多々良マップ」を活用し、6月に開催する「あじさい祭り」への参加を呼びかける為、1件1件ちらしを配っている。地域でも恒例の行事となり、開催前に近隣の方があじさいを届けてくれる等、交流が深まっている。又、事業所の避難訓練に近隣の方が参加してくれたり、地域の田植え前の清掃に職員が参加する等、接点を持っている。	
			(外部評価) 田植え前に、地区の方達が「いで掃除」を行う際には、事業所からも毎年職員が参加して地区の方達と一緒に掃除をされており、顔馴染みとなっている。近所の方は、ご自分の土地の草を刈る際には、事業所の草も刈ってくださり、職員がお茶をお出しする等して、お礼をされている。以前、事業所で行う共用の通いサービスを利用されていた近所の方が、時々遊びに来てくれることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会で開催しているミニ勉強会を、地域の民生委員や老人会会長・地区の総代の方々を対象に行い、その方々を通じ地域の方々に発信して頂いている。又、地域の中学校の体験学習の受け入れを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を事業所の報告会に終わらせない様、テーマを決めて頂き、ミニ勉強会を開催した。毎回活発な意見交換会が行えている。又、避難訓練では、参加して頂いたメンバーの方の意見を下に、訓練の方法を改善した。	
			(外部評価) 会議では、事業所の行事等の報告の他に、講師を招き「認知症と薬」「生活習慣病」「高血圧症」等のミニ勉強会を開催されている。参加者からは、「最近認知症に良い薬ができた」と聞いていたから認知症は薬で治ると思っていたが、違うことがわかった。」「ここで勉強したことを自分が地域の方に広めていきたい」「今後も続けて開催してほしい」等の感想や意見をいただいた。避難訓練の報告を行った際には、民生委員の方から「たこ足配線やコンセント部分の埃に注意」すること等についてアドバイスをいただいた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の担当者が、運営推進会議に毎回出席しており、事業所の実状や評価の取り組みについて意見交換を行っている。他、「あじさい祭り」や避難訓練にも参加し、交流を図っている。	
			(外部評価) 事業所では、「災害時に地域の避難場所として役立ちたい」という思いで、市に相談され、「近隣の方の一時的な避難場所として活用してはどうか」とお返事をいただき、地域の方達と連携して避難訓練等にも取り組まれている。運営推進会議時いただいた資料を活用して、虐待や身体拘束防止について職員研修等を行っておられる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員の勉強会のカリキュラムに取り上げ、理解に努めている。玄関は鍵をかけず、利用者が出掛けるのを止めず、さりげなく見守り、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。	
			(外部評価) 管理者は、月1回の勉強会時に、「目に見える拘束だけでなく言葉での拘束にも注意する」よう、定期的に職員に話しておられ、職員が日々のケアについて振り返る機会となっている。「ちょっと待って・ここに居って等の言葉が無意識に出てしまう」という職員からの発言に、管理者は、「拘束になっていないか意識することが大事」と伝えられた。調査訪問時には、玄関は施錠しておらず、利用者が職員と一緒に散歩に出かけて行く様子や、ご家族の見送りに外に出られる利用者もみられた。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  職員の勉強会のカリキュラムに取り上げ、無意識の行動や言葉かけが不適切なケアになっていないか、学ぶ機会を設けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  運営推進会のミニ勉強会のテーマに取り上げ、理解を深めた。現在活用している方はいないが、相談に来られた方で必要とされた方には活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  介護保険法の改定により、介護報酬の変更がある場合は、事前に家族会で概要を説明した上で、更に個別で説明し、理解して頂いている。事業所側の一方的な通達にならないよう配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  年に3回開催している家族会で意見や要望を聞く以外に、ご家族の訪問時には、ご家族と話す時間を作り、意見や要望を言いやすい雰囲気を作っている。又、11月の福祉フェアで開催したフリーマーケットには、出品物の提供が多数あり、家族の協力を得られた。  (外部評価)  年に3回、家族会を開催されており、事業所サービスについての満足度のアンケートを行っておられ、結果は、「良くして頂いている」「不満はない」という感想が多かったようだ。ご家族から「利用請求書の送付日がばらばらだと困る。」との意見があった際には、家族会で意見をお聞きして、改めて送付日程の確認をされた。「パラディ便り」は、利用者の日々の暮らしの様子の写真を載せて作成されており、又、職員から「衣類の補充のお願いや家族会の参加のお願い」等のコメントを利用者個別に入れて送付されている。事業所では、評価機関が年2回発行する家族アンケートのコメント集から、「職員の異動に関して知っているご家族が少なく、ご家族も知りたいのではないか」ということに気付かれ、運営推進会議時や便りにて職員の異動について報告することを始められていた。	管理者は今後、家族会の機会を活かして事前に「看取りについて」等、「ご家族に話し合ってもらいたい内容」を挙げておき、会議をすすめていきたいと考えておられる。今後もさらに、利用する側であるご家族の意見や要望を十分に採り入れ運営できるよう取り組みに工夫を重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回あるユニット会で職員の意見をまとめ、リーダー会でユニットリーダーと管理者が法人の代表者に報告している。又、リーダー・管理者は日頃からコミュニケーションを図るよう心掛けている。	
			(外部評価) 管理者は、年2回、職員と面談する機会を作っておられ、その他にも「気づいたことは気づいた時に話し合う」よう取り組まれている。現在2ユニットで夜勤者が1名の体制であるが、「夜間1ユニットに、各1名ずつ職員を配置してほしい」という職員の意見を、管理者は、法人に伝えて話し合っておられる。事業所では、リスクマネジメントへの取り組みを強化されており、「ヒヤリハット」の検討のみではなく、評価をしてユニット会で発表する仕組みを作っておられ、管理者は「ケアや業務のミスが減ってきている」と成果を感じておられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、職員の疲労やストレスに気を配り、外部からカウンセラーを招き、ストレスケアマネジメントを職員全員に行っている。又、行事・勉強会の時の時間外手当の支給等、やりがいをもち働けるよう、職員環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員勉強会は、月毎にカリキュラムを組み実施しており、職員は月毎に復命書を管理者に提出している。外部研修は職員の希望を聞きながら参加できるようにしている。又、代表者は、人材育成に力を入れ、外部から講師を招き研修を開催している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者は研修を通じて他の事業所の取り組みを聞き、学びや気づきを当事業所に取り入れている。又、地域の同業者とも相互訪問やTELを通じて情報を交換し、サービスの質の向上に努めている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 必ず事前面談をして生活状態を把握し、本人の意向をお聞きしており、希望される方には来訪していただき、実際に日常の様子を見て頂いている。又、通所利用を経て入居された方もおり、利用者や家族の思いを受け止め、安心して頂けるような関係作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談で、あらかじめ家族の困っている事・不安な事・要望をお聞きしている。利用開始からは、面会時に話を聞く時間を設け家族の求めている事を理解し、どのように対応していくかを話し合うようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面談に来られた方には可能な限り柔軟な対応を行う為、常に関連施設・事業所・医療機関などの連携はとっており、必要に応じて調整をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は利用者の得意だった事を知っており、利用者から様々な生活の知恵を教われる場面が多くある。又、そういった場面が持てる様にセッティングや声掛けに配慮している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 「絆を大切にしよう」の行動指針の下、家族を巻き込んだ生活支援を目標にしている。手紙・電話・面会時に日頃の状況を報告するとともに本人の意向をお伝えし、家族と共に支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 以前、共用のデイサービスにいられていた利用者になじみのある方が遊びに来られたり、以前買い物に行かれていたスーパーに買い物に出掛ける等、関係継続の支援に努めている。 (外部評価) ご家族とお墓参りや法事等に外出される方や、知人が訪ねてきてくれるような方もある。ご家族とご自宅に戻って過ごされ、近くの馴染みの美容室で毛染めする方もいる。事業所では、利用者のご家族の「気持ちをつなぐ」ことを大切にされており、ホームに足が遠くなっているようなご家族には、利用者が心配している気持ちや気にしていることを伝え、「一緒におやつを食べませんか」「一緒に外出しませんか」と、誘っておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係性を把握し、席の配置や作業の分担を行なっている。利用者同士のトラブルが生じた際、お互いダメージが残らないよう個別に話を聴く等、職員が調整役になり支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても、これまでの暮らしで知り得た本人の状況や生活習慣や支援のポイント等を、次に生活する場の関係者に情報提供をしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者同士の日常会話や日々の行動・表情・又は面会時の家族との会話から思いを汲み取り、職員は気づきを記録し、情報を共有している。又それを介護計画に反映している。 (外部評価) 日々の介護記録は、利用者個々の状態や思いについて情報収集しやすいように、「利用者の言葉」「動作」等、項目に沿って記録する様式を作っておられる。担当職員が3ヶ月ごとに情報をまとめられ、利用者個々の思いや意向の把握に取り組んでおられる。又、事業所独自に、「〇〇様らしきシート」を作成されており、ご本人の希望、こだわり、趣味、馴染みのもの等についてアセスメントされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人との日常や家族をはじめ本人に関わる方達からの情報をもとに、本人のバックグラウンドを知り、個々のライフスタイルや価値観の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の生活習慣や体調の変化を把握している。「できる事を探そう」という行動指針の下、本人のできる事を知り成功例を積み重ねられるよう、介護計画に反映している。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画が現状に即した具体的なものになる様、計画書の形式を変更した。利用者毎に職員の担当者を決めており、日々の関わりの中で本人や家族の思いや要望を聞きアセスメントし、「その人らしい暮らし」の支援に向け職員全員の意見をまとめ、計画を作成している。	
			(外部評価) 介護計画の様式を見直されており、より具体的な支援が実施できるよう解決すべき課題1つに対して、長期目標、短期目標、具体的な援助内容が記入できる様式に変更されていた。利用者、ご家族の希望は、計画作成前に個々にお聞きして、利用者の日々の様子や毎月のモニタリング等を踏まえて、半年ごとに見直すようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 主に言動を記録に残し、状況や背景が分かりやすいように書き方を工夫している。体調面や精神面の変化が著しい時はセンター方式を活用しており、個別記録を基に介護計画の見直しや評価を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人・家族の状況に応じて、通院や入・退院時の付き添い・送迎、又、入院中の洗濯物等、必要な支援は柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のスーパー・デイサービス・保育所等、地域資源を活用し、本人の楽しみを支援している他、本人の希望により、訪問理容のサービスを利用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 現在は全員が協力病院にかかっている。1回/週は主治医に状態を報告し、2回/月は往診がある。利用者の体調が優れない時はFAXで状態を報告し、受診するかどうか相談して決めている。又、他科受診を家族が希望されたり主治医からすすめられる時は、家族と日程を調整し同行して頂いている</p> <p>(外部評価) 健康診断を利用者全員は、年1回、受けておられる。ご家族には事前に日にち等をお知らせして、希望によりご家族が付き添われている。又、歯科・眼科等の専門医を受診される場合は、ご家族が対応されている。体調が優れないような場合は、かかりつけ医に連絡して、協力医療機関の診察時間に診てもらえるよう支援し、急変時には、救急車を呼ぶ等して対応されている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 職場内に看護職員を2名配置している。介護職員は、利用者の体調や些細な変化を見逃さないよう早期発見に努め、気づきを相談し、かかりつけ医へ報告・受診を行なっている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院時には、本人の生活支援の情報を病院に提供している。又、職員は面会に行き、病院関係者や家族から回復状況を聞き、情報を交換しながら早期退院に向け連携をとっている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 看取りを行った事はない。現段階での事業所の体制で、対応出来る最大の支援を、その時々利用者の状態をご家族とかかりつけ医と話し合い、随時意思を確認し対応している。</p> <p>(外部評価) 事業所は、看とり支援について、「利用者、家族の意向、思いに添えるよう支援していきたい」と考えておられ、ご家族に「終末期をどこで過したいか」「ご家族はどの程度協力できるか」等について、看とりの希望アンケートを実施された。ほとんどのご家族が事業所での看とりを希望されていることがわかり、現在、集計したアンケートからうかがえるご家族の意向を法人代表者に伝えておられるところである。又、看とり支援の体制作りという面からも、夜間の職員体制について法人と相談し、1ユニットの1名の職員を配置する体制の実現に向け取り組まれている。</p>	<p>終末期の支援については、利用者の希望やご家族の意向に沿った支援ができるような体制作りが期待される。利用者、ご家族がその時々終末期のあり方を決められるよう、法人、事業所でできることを話し合い、利用者、ご家族をサポートしていかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署による心肺蘇生の研修を受講し、受講した職員による施設内研修を行う事で、全職員が周知している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、避難訓練を実施している。1回は運営推進会の方や近隣の方が参加され、訓練後には意見交換会も行なっている。風水害の対策マニュアルも作成しており、災害時の避難場所との契約を結んでいる。	
			(外部評価) 年2回の避難訓練のいずれかに職員が必ず1回は参加されている。事業所の自動通報装置には、7名の近隣住民の方を登録されており、避難訓練時にも参加いただき、利用者の誘導方法等について具体的に練習をされている。又、登録者が自宅から何分で駆けつけられるか計り、把握されている。訓練では、消防の方から、「火元がどこで、どこに避難するのか大きな声で指示を出す」「避難の際に居室の戸を閉める」等のアドバイスをいただいた。訓練に参加した地域の方からは、「夜間想定であれば、利用者全員ベッドで寝ていることを想定して訓練する方がいいのではないか」と意見があり、その後の訓練で実施された。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや対応を心がけている。援助が必要な方にもご自分の出来る気持ちを大切に、自尊心を傷つけない様にさりげない援助や言葉かけが出来る様に、職員間で情報を共有している。	
			(外部評価) 入浴や排泄の介助は、利用者の希望によって同性の職員が介助されている。又、職員は、利用者に声をかける際の声のトーンにも気を付けておられる。調査訪問時、耳の聞こえにくい方に、職員は、ご本人の耳もとで言葉をかけておられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常の関わりの中で、本人の思いや希望を聞きだし支援を行なっている。意思の表出の出来にくい方は、言葉尻や表情から思いを読み取る様にしている。又、生活の中に自己決定できる場面を作っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な一日の流れは決めているが、一人ひとりのその日の体調に配慮しながら、又は、その人の生活習慣に合わせたペースで暮らせるよう、できるだけ個別性のある支援に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 化粧やおしゃれは、個々の生活習慣に合わせた支援をしている。洋服は本人が選んでいるが自己決定が出来にくい方には職員が選んでいる。美容院に行かれる方はいないが、2ヶ月に1度の理容師のカットの時は、本人の意向に添えるよう支援している。又、シャンプー・リンス・化粧水や栄養クリーム等、本人のこだわりの物を使っている方もいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日常の会話の中で、利用者の好みや希望を聞き、栄養士が1週間の献立を立てており、下ごしらえ・盛り付けや食器拭き等出来る事を役割分担して行い、刺身作りや漬物作り等、腕前を披露出来る場面作りも行なっている。又、職員は利用者と同じテーブルで同じ食事を摂り、会話をしながら楽しい雰囲気の中で食事が出来る様に努めている。	
			(外部評価) 職員は、利用者との会話の中で、食事の好みや希望をお聞きし、栄養士資格を有する職員が、希望を反映して1週間の献立を立てておられる。調理専門の職員を配置しておられるが、職員は、利用者のできることや得意なことを踏まえて、食事準備にかかわられるよう声かけされており、調査訪問時には、ピーマン、竹輪等を包丁で切って、食事の下ごしらえをされてる利用者の様子が見られた。初めて作った料理や、味付け等について「どうでしたか」と利用者それぞれに感想を聞くようにされており、さらに意見を採り入れ、おいしい食事作りに取り組まれている。利用者の誕生日には、お好きなものでお祝いされており、調査訪問時、「お肉が好き」と言われる利用者には、職員は、「豚肉と牛肉どちらが好きですか。」と聞いておられた。小食な方には、小さ目の食器を使用し、できるだけ食べられるように配慮されたり、調査訪問時には、ごはんを残さず食べられるようふりかけ等もすすめておられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 職員は一人ひとりの水分量・食事量を把握している。食事量が少ない方には、本人の嗜好品や飲水量を調整するときもある。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者の状態に合わせて、出来る方は声掛けし、出来ない方には、毎食後できない部分のサポートをしており、1回/週は入れ歯洗浄剤を使用している。又、口腔状態を把握し、歯科受診も行なっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 尿意のない利用者の排泄時間をチェックし、時間をみて誘導し、トイレでの排泄に努めている。便秘薬の服用時間や量の調節をし、失敗せずトイレで排便できる様、主治医に相談している。</p> <p>(外部評価) 極力、薬には頼らず、トイレで自然に排便できるように、毎朝、冷たい牛乳や水を飲む習慣を付けて、排便を促しておられる。又、利用者の状態に応じて、医師とも相談しながら、漢方薬や薬の変更を試しておられる。入居して間もない方で、入居前、夜間ポータブルトイレを使用していた場合は、混乱しないように居室にポータブルトイレを置かれるが、管理者は、「少しずつトイレに行けるよう支援したい」と話しておられた。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 起床時の冷水や牛乳の提供やヨーグルト等、自然な排便に繋がるよう工夫はしているが、便秘薬を服用している方が多い為、服薬は最低限に出来る様、主治医と相談しながら調整を行なっている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 入浴時間帯は概ね午後となっている。一番風呂を希望される方等、各々のタイミングで入浴出来る様支援している。異性の職員の介護に抵抗のある方には同性の職員と交代する様配慮している。又、入浴を嫌がる方には、家族の協力を得る等入浴への負担や抵抗の軽減に努めた。</p> <p>(外部評価) ほとんどの方が午後からの入浴となっている。利用者の希望により一番風呂に入られる方や気の合う利用者同士で一緒に入る方もある。入浴を嫌う方には、散歩の後等、「汗をかいたからお風呂で汗を流しましょうか。」とお誘いすると、入浴につながる場合が多いようだ。入浴中、職員と会話することを楽しみにされている利用者には、ゆっくりお話ができるよう対応されている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの生活のリズムに合わせて、日中の活動に配慮している。その時々体調や表情を見ながら休息をとって頂いている。又、穏やかな気持ちで安心して眠れる様に、夕方からの居場所や過ごし方にも配慮している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋をファイルにつけて日常的に確認しており、処方の変更になったり状態変化が見られる等、医療的な記録は色を変えて記入している。日々の服薬を確実なものにする為、服薬方法を個別に決めており、職員はそれを周知している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりのしたい事やできる事を本人や家族から聞き、日々の生活の中で活躍出来る場面を作り、張り合いや喜びを感じて頂けるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 行事以外にも、ドライブ・喫茶・買い物等個別での外出支援を行なっている。家族・利用者と相談し、年1回は日帰り旅行に出掛けている。昨年は今治国際ホテルに出掛けた。 (外部評価) 塗り絵を好まれる利用者として色鉛筆を買いに出かけたり、お菓子を職員と一緒に買いに出かけたり、早春には、玄関を出たところにある土手に、つくしを探しに出かけておられる。「産直市に、どうから行ってない、また行きたい。」「そろそろ、ラッキョウとウメを漬けな、いかんね。」等の話題が出た時をきっかけに、職員は、利用者と買い物に出かけて、ラッキョウやウメを漬けておられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族と相談し、少額のお金を持っている方もいる。事業所で管理している方でも、買い物に出掛ける前には、自分でお金が払える様、手渡すなど工夫している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話はいつでもかけられる。親戚や知人に年賀状・暑中見舞い・お礼状を出せる様、支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 中庭は、両ユニットの利用者の憩いの場になっており、洗濯物を干したり、草花や野菜を育てたり、日光浴や散歩をされる方もいる。天気の良い日は、中庭で食事する事もある。玄関・居間・食堂には季節の花を飾り、雛人形や五月人形等その折々のしきたりを大切にしている。</p> <p>(外部評価) 居間や食堂、洗面台にはあじさいを飾っておられた。居間の天窓には、布で日射しの調節をされている。調査訪問時、居間では、編み物したり、数名でテレビを見たり、塗り絵をされている利用者の様子が見られた。職員と一緒に中庭に干してある洗濯物を取り込んだり、中庭を一周回っている利用者もみられた。皮膚に固いものが当たることで皮膚が赤くなる利用者には、職員のアイデアで、いすの足やシャワーチェアへの足等に、スポンジを巻く等して対応された。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 職員は一人ひとりの関係性を把握しており、各々に心地よく過ごして頂けるよう、ソファや椅子の配置に配慮している。又、中庭や玄関先・駐車場等、戸外にもベンチや椅子を設置し、一人で過ごしたり中の良い入居者同士がくつろげるスペースがある。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 寝具・テレビ・仏壇の他、人形やぬいぐるみ・時計を持って来られている。又、家族の写真や花を飾られたり、それぞれの居心地の良い環境を工夫されている。</p> <p>(外部評価) 居室には、ベット、ダンス、壁掛け扇風機が備え付けられており、利用者は、それぞれに、ご自宅からダンスやテーブルを持って来られている。御札や位牌を持ち込んでいる方もおられた。ご自分で掃除される方や模様変えする利用者の方もおられる。編み物の好きな方は、自作のテーブルクロスをテーブルの上に敷いておられた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりの身体機能や状況に合わせて、安全で自立した生活が送れるよう検討し、環境整備に努めている。</p>	